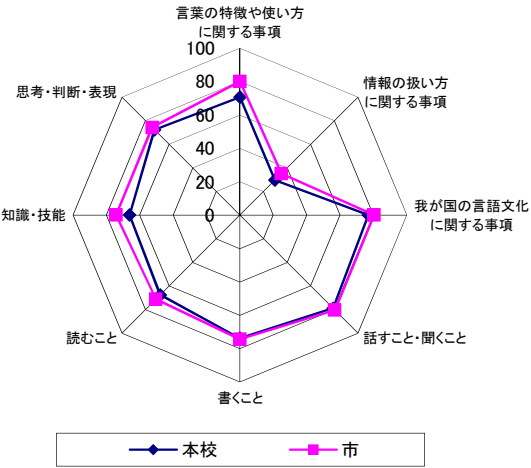


宇都宮市立田原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	70.7	80.0	76.5
	情報の扱いに関する事項	29.6	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	77.0	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	78.9	80.4	77.7
	書くこと	73.8	74.3	62.9
	読むこと	67.6	71.2	65.8
観点別	知識・技能	66.1	74.1	68.4
	思考・判断・表現	72.4	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

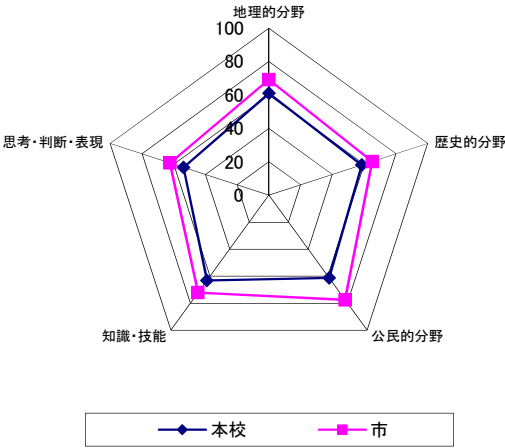
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	●「漢字を読む」で、全国・市双方の正答率を下回ったのは「飛躍」のみだった。 ●「漢字を書く」では、4つの問題全てで、市の正答率を7～13ポイント下回った。特に正答率が低かったのは「射る(小6)」だった。 ●動詞の活用の種類と対義語の問題では、市の正答率より約10ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を正しく読んだり書いたりできるようになるために、「漢字の成り立ち」や「音読みと訓読み」、「部首」の3つの知識を生かした学習が行えるように指導していく。 ・文法や語句の知識については、授業で継続的に指導していく。
情報の扱いに関する事項	●説明的文章の内容を読み取り、前後の語句を手掛かりに空欄に当てはまる言葉を抜き出す問題では、全国の正答率は上回ったが、市のそれよりは約8ポイント低かった。	・文章の内容を段落ごとにまとめたり、接続語のはたらきや指示語や助詞に注意して読解を進める習慣は身に付いてきている。同義的言い換えになっている表現に注意して、筆者の主張を正確に読み取る時間を設定する。
我が国の言語文化に関する事項	○古文の、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問いでは、約70パーセントの生徒が正解していた。 ○現代語訳の中から古語の意味を抜き出す問いでは、市の正答率はわずかに下回ったが、85パーセント以上の正答率だった。	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す知識・技能については、3年間で繰り返し触れることで定着を図る。
話すこと・聞くこと	○「話すこと・聞くこと」の4つの問いでは、全国・市双方の正答率を上回った問いが2つあった。 ●最も正答率が低かった問いは、前後の文章を手掛かりに、空欄に当てはまる十五字程度の言葉を書くものだった。	・前後の文章を手掛かりに、条件に合わせた文章を書く力が身に付くように、授業で取り上げたり、演習問題に取り組んだりする機会を設ける。
書くこと	○「文章を書く」の5つの問いでは、4つの問いで全国・市双方の正答率を上回った ●最も正答率が低かった問いは、読み取った内容をもとに、提示された条件にあった、40字以上60字以内の文章を書くもので、正答率は約32パーセントだった。	・問題を正確に理解し、書くべき内容を捉えて、条件に合わせて文章を書く力が身に付くように、演習や添削などの機会を設けていく。
読むこと	○「説明的文章の読解」の問いでは、全ての問いで国の平均正答率を上回った。 ●「文学的文章の読解」の問いで、最も正答率が低かった問いは、物語の展開を捉える問いで、正答率は約57パーセントだった。	・登場人物の言動や情景描写に注目して、心情を読み取る力は身に付いてきている。授業や問題演習などを通して、表現を丁寧に読み取り、それら組み合わせたり、言い換えたりして適切な言葉で表現する練習をしていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	61.0	69.2	61.5
	歴史的分野	58.6	65.1	59.1
	公民的分野	61.4	77.6	71.6
観点別	知識・技能	63.2	72.2	66.8
	思考・判断・表現	53.8	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

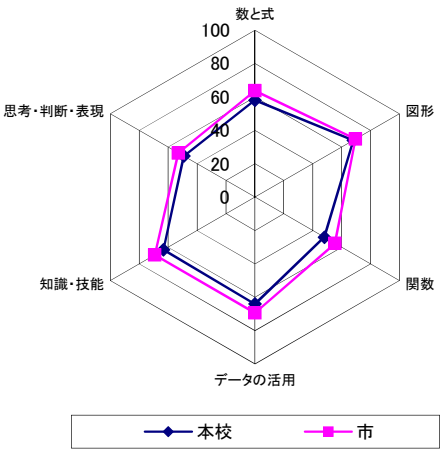
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○中国・四国地方の特色について1ポイント上回った。 ●日本の地形について、市正答率よりも20ポイント近く低い。 ○近畿地方と世界との結びつきが市正答率と比べて同レベルの学力を維持した。	・家庭学習の習慣の定着。 ・複数の事象を関連させて思考する授業・教材の開発。 ・興味・関心を引き出す資料の作成。
歴史的分野	○貝塚や邪馬台国など、古代の生活については、市正答率や全国平均を上回った。 ●江戸時代全体の政治にかかわる理解が、市正答率を下回った。 ○江戸時代の外交では、全国正答率を大きく上回った。	・年表を活用した学習の定着。 ・歴史用語の意味するところの学習。 ・学習の方法と問題集の使い方の指導。 ・既習事項の確認。
公民的分野	●憲法改正の手続きについて、市正答率を大きく下回った。 ●物事の採決についての判断が、15ポイント以上低い。 ○人権宣言の理解は、全国正答率を上回ることができた。	・新聞記事やニュースの教材化。 ・「権利」「政治」などの概念の定着に向けた指導。 ・世界的な出来事の紹介。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	58.1	63.7	61.5
	図形	68.0	69.6	61.1
	関数	48.0	55.4	43.5
	データの活用	64.0	69.3	64.2
観点別	知識・技能	63.2	69.2	65.3
	思考・判断・表現	49.2	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

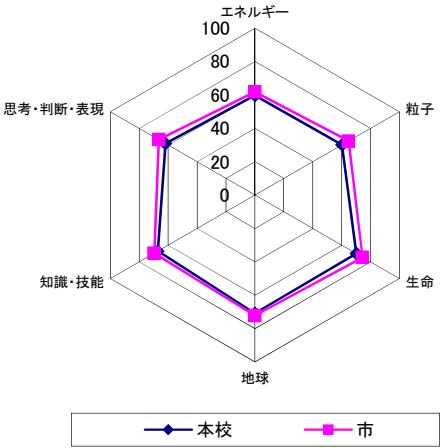
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市よりも5. 6ポイント低い。 ○「平方根を利用して正方形の1辺の長さを求める」の設問では、市よりも23ポイント上回っている。 ○「根号をふくむ式の乗法」の設問では、市よりも4.4ポイント上回っている。 ●ほとんどの設問で、市よりも5～10ポイント程度下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎、基本の定着が不十分である。小学校からの既習事項の復習を丁寧に行い、基礎学力の定着につなげたい。
図形	平均正答率は市よりも1. 6ポイント低い。 ○「示された内容の根拠となる図形の性質について理解している」の設問では、市よりも4.8ポイント上回っている。 ●「多角形の外角の和はつねに360° であることを理解している」の設問では、市よりも7.7ポイント下回っている。	・正答率は市と同程度であった。「証明の必要性和意味について理解している」の設問では、44. 7ポイントと正答率が半分切っている。証明の問題演習だけでなく、必要性や意味が理解できるように思考が深化する課題を設定していく。
関数	平均正答率は市よりも7. 4ポイント低い。 ○「座標軸上に頂点をもつ三角形の面積を求めることができる」の設問では、市よりもやや低い結果であった。 ●すべての設問で市よりも5～10ポイント程度下回っている。	・関数の問題を考える上での基礎的な計算力の定着が不十分である。まずは、基礎的な計算をできるようにし、関数の理解につながるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は市よりも5. 3ポイント低い。 ○「箱ひげ図と四分位範囲について理解している」の設問では、市よりも3. 6ポイント上回っている。 ●「大小2つのさいころを投げたときの確率を求めることができる」の設問では、市よりも14. 3ポイント下回っている。	・箱ひげ図と四分位範囲以外の内容が市の正答率よりも下回っているため、基礎的な事項の確認を重点的に行い、実力を養うよう指導していく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.8	61.8	60.6
	粒子	60.2	64.8	54.0
	生命	70.2	74.5	66.6
	地球	70.8	72.1	63.0
観点別	知識・技能	67.2	69.6	63.4
	思考・判断・表現	61.8	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

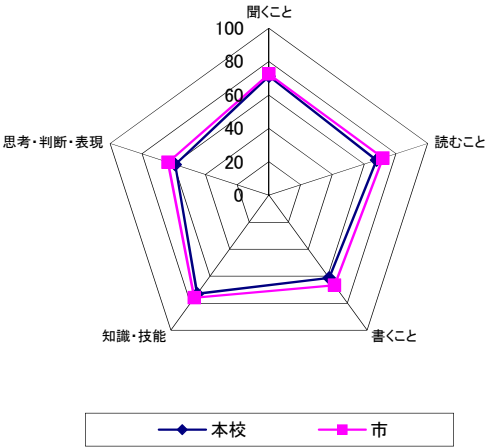
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正解率は市より2点、参考値よりは0.8ポイント低いが、近い値にはなっており、まずまず定着していると考えられる。 ○光や仕事に関しては7割程度の正答率でありかなり定着しているといえる。電気分野に関しては磁界の向きに関しては市正答率を0.1ポイント超えている。 ●磁界の向きを変える方法に関しては市正答率より6ポイント低い。	・「知識」としては定着しているが、活用を問われるとろさがが出る。「なぜそうなのか」ということについて重点を置いた指導が必要になってくる。
粒子	平均正解率は市より4.6ポイント低いが、参考値よりは6.2ポイント高い。 ○気体の発生、物質の成り立ちに関する問題はかなり定着している、特に、酸化銀の分解に関する問題では市正答率、参考値をともに上回っている。 ●イオンに関する問題では市正答率、参考値ともに大きく下回っている。特にイオン数の変化に関しては市正答率よりも10ポイント低い。	・物質としての理解は進んでいるが、概念的な考え方や、化学反応式としてのアウトプットが不得手であるので、繰り返し指導が大切になる。また、イメージを生徒に持たせ、それを定着させることが大切である。
生命	平均正解率は市より4.3ポイント低いが、参考値よりは3.6点高い。生徒率が7割を超えている。 ○全体的に正答率が高い。裸子植物の特徴を答える問題と血液の循環に関する問題では市正答率、参考値をともに上回っている。また、遺伝に関する問題では正答率が8割を超えている。 ●イチゴを分類する問題など習ったことを応用する問題での正答率が低い。	・全体的に正答率が高く、定着している様子が見られる。人体に関する問題が比較的不得手で、視覚的に理解しにくいことが要因として考えられる。 ・習ったことを利用して考える問題には通常の授業から考える活動を増やし、対応できるようにしていきたい。
地球	平均正解率は市より1.3ポイント低いが、参考値よりは6.2ポイント高い。正答率が7割を超えている。 ○全体的な正答率が高い。天気図記号の読み取りに関しては、市正答率を11.1ポイント上回っている。 ●前線関係の理解が不十分であり、市正答率より7.8ポイント低い。	・全体的な正答率は良好である。引き続き指導を続けていきたい。前線に関してはイメージしづらい分野でもあるので演示実験を強化するなど、生徒のイメージ形成に努めたい。

宇都宮市立田原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.3	72.5	70.5
	読むこと	67.8	71.9	66.9
	書くこと	61.4	66.8	59.7
観点別	知識・技能	73.1	76.0	73.9
	思考・判断・表現	59.0	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市よりもやや低いが、3つの領域の中では最も高く、比較的聞くことに関しては得意な生徒が多い。 ○内容に合う絵を選択したり、日常的な話題の概要を捉えたりすることは平均を上回っている項目が多い。 ●対話文の応答や様々な英文がでてきたときに情報を整理し答えることが苦手で、市の正答率を10ポイント近く下回るものもある。	日常的な話題の概要は捉えられるが、要点を捉えるといったことは苦手としている。自分が今何を質問され、どんなふうに答えればよいかを考えさせるためにも、授業の中で教師やALTとのやり取りを聞き取ったり、ALTとやりとりをする時間を増やしていきたい。
読むこと	平均正答率は市より4.1ポイント低い。小問ごとに分けても平均を上回ったものは14問中1問だけである。 ○様々な英文の読み取りでは、もう少しで市の正答率に届きそうなものがあった。 ●基本的な文の形、用法を理解できていないので、正しく情報を読みとることもできていない。	・基礎基本の定着が不十分であるので、1年生からの基本文を繰り返し書いたり、読んだりし、しっかりと定着させる。 ・文を読むには語彙力も必要なので、単語テスト等を行い語彙力アップを図っていく。
書くこと	平均正答率は市より5.4ポイント低い。いちばん低いものでは市の平均より12.9ポイント下回っている。 ○単語の並べかえによる英作文は「書くこと」の項目の中でもよくできているほうであった。 ●対話の流れに合った英文や英作文において、自分の書いた答えに対する理由や説明を正確に書くことができていない。	・基礎基本の定着が不十分であるので、1年生からの基本文を繰り返し書いたり、読んだりする機会を設け、しっかりと定着させていく。 ・文を書くにも語彙力が必要であり、その語がどのように使われるのかも理解しておく必要がある。教科書、ワークを通して様々な文に触れさせ、場面や状況、目的に合った表現に慣れさせていく。

宇都宮市立田原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・わかる授業を展開する工夫	・基礎基本を確実に習得させるために、ねらいを生徒と共有し振り返りをしっかり行い、その時間に学ぶべきことがわかったかどうかを確認させる。 ・タブレットなどのICT機器の有効的な活用をする。	・「学校の授業がどの程度わかりますか」への肯定割合は、どの学年も市より若干低い。その時間に学ぶべきことを明確にし、基礎基本を確実に習得させる必要がある。 ・インターネットやパソコンに関する質問に関しては、昨年度に比べると肯定割合が高くなった。授業の中での活用や長期休暇の課題を端末を活用したものを取り入れたことなどもあり、活用する機会が増えたことにより高まったと言える。
・家庭学習の習慣化	・家庭学習時間の目安や家庭学習の重要さの周知、担任や委員会からの呼び掛けや課題の出し方の工夫と授業での確認点検をするなどして家庭学習内容の充実を図る。	「家庭での学習について」の質問への肯定割合は、昨年度よりも市よりも高いものもある。「ふだんの学校の授業以外に、どれくらい学習していますか」の質問では、市の回答と比べると平日も土日も学習時間が短い。さらに課題の出し方を工夫し、家庭学習内容の充実を図っていく必要がある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・ねらいをはっきりさせ、ねらいにせまる授業の展開と振り返り活動の実施徹底をしていく。また、タブレットの効果的な活用を図り、わかる授業を展開していく。
・家庭学習の習慣化を目指し、課題の出し方を工夫してより充実した学習ができるよう仕組んでいく必要がある。学習した結果、わかった喜びやできた喜びを味わわせ、主体的に学習に取り組む態度を育成し、基礎基本を確実に身につけさせていく。